

来て！見て！知って！文化財

国宝「^{かんぎいんしょうでんどう} 歓喜院聖天堂」

平成24年7月に国宝に指定された「歓喜院聖天堂」。その権現造の本殿を飾る彫刻はまさに豪華絢爛。外部には、肉彫り・透彫り・丸彫り・籠彫りなどの多様な彫刻群が飾られています。特に、奥殿は軒周り以外の全ての部材が彫刻となっています。

縦横の柱やその周辺には、地紋彫りと呼ばれる文様彫刻が施されており、中国の神話に登場する獅子・龍・^{しし}・^{りゆう}・^{ばく}・^{ほうおう}・^{ほうおう}などの霊獣や動植物が今にも動き出しそうな勢いで観る者を圧倒します。奥殿の外周りの壁板や縁下を飾る大羽目彫刻と縁下腰羽目彫刻は極めて緻密であり、いずれも鮮やかな彩色に彩られています。高肉透彫りと呼ばれる高度の技法が用いられた七福神や唐子遊びなどの彫刻はユーモアを含みつつも大きな感動を与えてくれます。また、

内部の壁や柱は漆塗りや金箔で彩られており、獅子や蝶の障壁画、吉祥文字、狩野派による龍や鳥獣の天井画が描かれています。



日光東照宮の創建から百年あまり後、装飾建築の成熟期となった時代に、棟梁の統率の下、東照宮の修復にも参加した職人たちによって、優れた技術が惜しみなくつぎ込まれた歓喜院聖天堂は、江戸時代建築の一つの到達点であると言えます。

◆江南文化財センター TEL 048-536-5062